

自治体SDGsモデル事業提案



祝登録 みなかみユネスコエコパーク

利根川源流のまち、みなかみ。豊かな水で森林を育み、それを守り、生かし、後世に伝えていく。地域のみなさまと共に。



みなかみ町の概要

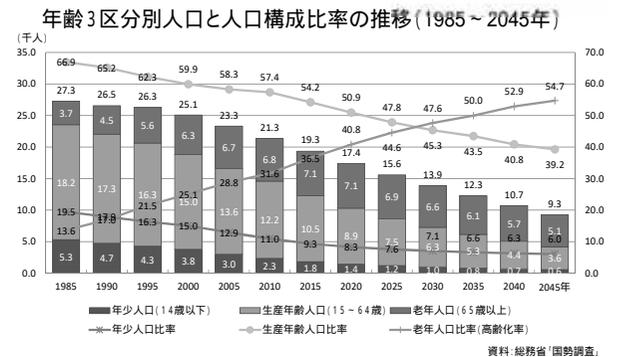
世界が認めた「ユネスコエコパーク」のまち

- 群馬県の最北端に位置し、広大な面積(東京23区の約1.2倍)の90%以上を山林が占める。
- 利根川源流の町であり、首都圏の水瓶として流域約3,000万人の経済と暮らしを支える重要な責務を担う。
- 観光と農業が基幹産業で、首都圏からの近接性にも優れ(東京駅から最短66分)、自然の恵みを活かした質の高い魅力(温泉、アウトドアスポーツ、農産物、里山景観と農村文化など)が幅広く存在することが特徴で、年間約400万人の来訪がある。
- 本町の自然環境とそれをよりどころとしてきた人々の生活や文化は、自然と人間社会が共生する世界的なモデル地区として、2017年6月にユネスコエコパーク(生物圏保存地域、Biosphere Reserves)に登録された。



ユネスコは、MAB計画及びリマ行動計画において、ユネスコエコパークで発展した持続可能な開発モデルの世界的な普及によって2030アジェンダの実施に貢献するとしている。

- 人口は、1955年をピークに2015年には19,347人まで減少。若者世代を中心とした人口減少に歯止めがかからず、町の活力が大きく低下しかねない危機的な状況にある。



森林資源を活用した稼ぐ力の強化と循環経済の確立



- ◆ 面積の9割を占める森林資源を活用し、川上から川下まで一貫した流通システムを「みなかみモデル」として構築する。
- ◆ 町内での買い物のほか、エコ活動やボランティア活動等と連動したポイントシステムにより、地域で活動・消費する意識を高める。

木材の伐倒から利用まで一貫した林業の六次産業化

- 単に町内産の木材を使用するだけでなく、将来の森林管理を担う人材育成をセットにしているところがポイント
- 山林所有者や地域住民が主体的に継続して関わることができる「自伐型林業」を推進し、多様な人材を巻き込んだ担い手の育成を推進する。アウトドアスポーツのインストラクターなどとの相性もよい。
- 町内の民有林のうち約7割を占める広葉樹林の活用といったこれまでの林業分野ではあまり重視されてこなかった分野にもチャレンジ
- 国産材にこだわった高級家具メーカーや町内木工職人、製材所、福祉作業所などと連携して、一貫した流れを構築



自伐型林業による担い手を育成



国産材高級家具メーカーと包括連携協定

今後の取組(統合的取組と連携)

- ✓ 自伐型林業による担い手の育成と就労機会の創出
- ✓ 木工製品の商品化と木材のブランド化
- ✓ 木材ステーション設置による木材集出荷の仕組み構築
- ✓ 山林マッチング制度の試行



伐倒から製品化までの工程が見える家具



流通を促す木材ステーションのイメージ

モデル事業の概要 (社会)

地域に根差した特色ある教育の推進と関係人口の増加



- ◆ 地域に対する誇りや愛情を育むため、地域の自然や文化など多くの魅力とその重要性などを学ぶ環境学習を推進
- ◆ 森林や木との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育てる「木育」を推進
- ◆ 官民連携やサポータ制度によるSDGs推進体制を構築

「ユネスコスクール」の登録

- 町内の小中高等学校をユネスコスクールに加盟し、持続可能な開発のための教育(ESD)の場としてユネスコエコパークとの連携による相乗効果を発揮させる。



町内小中学生による環境学習発表会



日本自然保護協会と連携した環境学習



林野庁赤谷プロジェクトと連携



町内小中学生は本町の自然を体験

暮らしに木を取り入れていく「木育」を推進

- 2016年7月に「ウッドスタート宣言」を行い、生まれてきた子供に本町が発祥のカスタネットをプレゼント
- 東京おもちゃ美術館と連携して木育キャラバンを毎年開催



町内産材の木のおもちゃで木育を推進



東京おもちゃ美術館と連携した木育キャラバン



生まれてきた赤ちゃんに本町が発祥のカスタネットをプレゼント

モデル事業の概要 (環境)

森林・里山整備と木質バイオマス利用推進



- ◆ 水源地である本町の森林を再生・整備することは、森林が有する多面的機能(生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源の涵養、地球温暖化の防止、木材等の生産、保健休養の場の提供など)を持続的に発揮させるために不可欠
- ◆ 町内の公共施設や温浴施設、宿泊施設などの大型施設、飲食店などの小規模な事業者や一般家庭への薪ボイラー・ストーブの導入を積極的に推進

山林所有者や地域住民を主体とした森林・里山整備の促進

- 山林所有者や地域住民自らが森林の管理を行える体制を構築することで、森林や里山の整備が促進されると同時に、山林が良好な状態で価値あるものとして次の世代に引き継がれていく。
- 美しい里山とそれを活用した生活は本町の財産であり、観光・農林業・教育・健康・福祉・エネルギーなど様々な分野を横断的かつ有機的に連結し地域を経営する。



町内に発足した6つの自伐グループが自らのフィールドで森林整備を開始



住宅裏の竹林整備も促進

公共施設や一般家庭等における再生可能エネルギーの導入推進

- 広葉樹の活用の一つとして薪(熱エネルギー)は非常に有効



町内民間事業者が薪ボイラーを導入



想いを共感し薪の販売を始める業者も



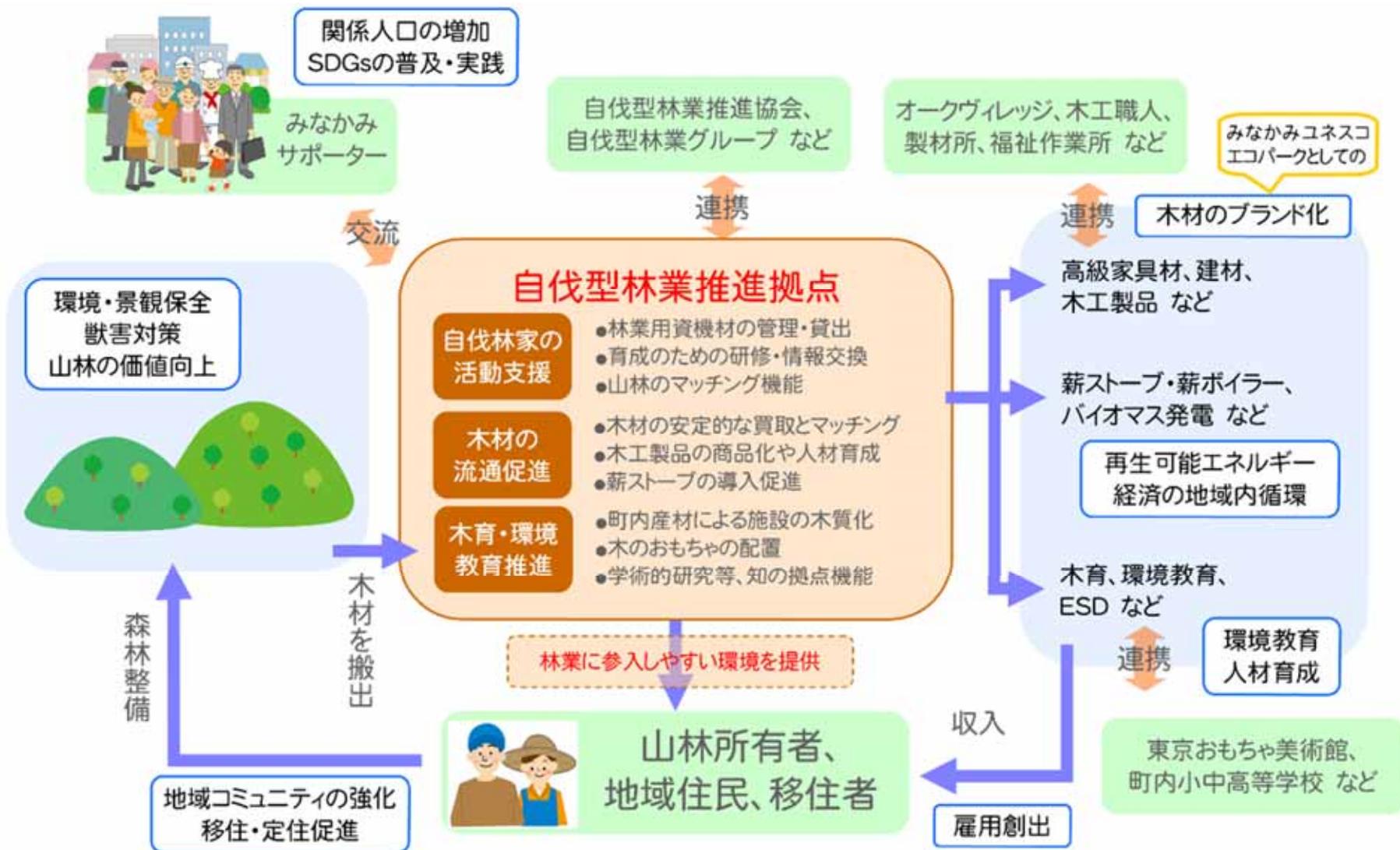
自伐グループが薪の利用に関する環境学習

今後の取組

- ✓ 薪ストーブ補助金を新設
- ✓ 導入可能性を調査
- ✓ 公共施設での普及啓発

三側面をつなぐ統合的取組 (補助対象事業の概要)

自伐林家の活動支援や木材の流通促進、木育・環境教育推進の拠点を整備



三側面をつなぐ統合的取組 (補助対象事業の概要)

ユネスコエコパーク及びSDGs普及啓発・推進体制整備

みなかみ町の事業者や町民

- ユネスコエコパークの理念やSDGs達成に向けて活動する企業や団体等と行政が連携して体制を構築
- サポーターに情報やサービスを提供し、本町の取組を知り、本町を訪れ体験してもらう。
- 町民もサポーターとして活動に参加し、地域内消費を促進



訪問・応援・交流・体験

情報・サービス提供



ポイント機能付
メンバーズカード
(イメージ)

みなかみサポーター制度(仮称)

- 本町のエコパークやSDGs取組に関する情報を入手
- ふるさと納税など、本町の活動を様々な形でサポート
- 本町を訪れ、人と自然の共生した活動に触れる。
- 活動に応じてポイントを取得し、お得に本町を体験できる。



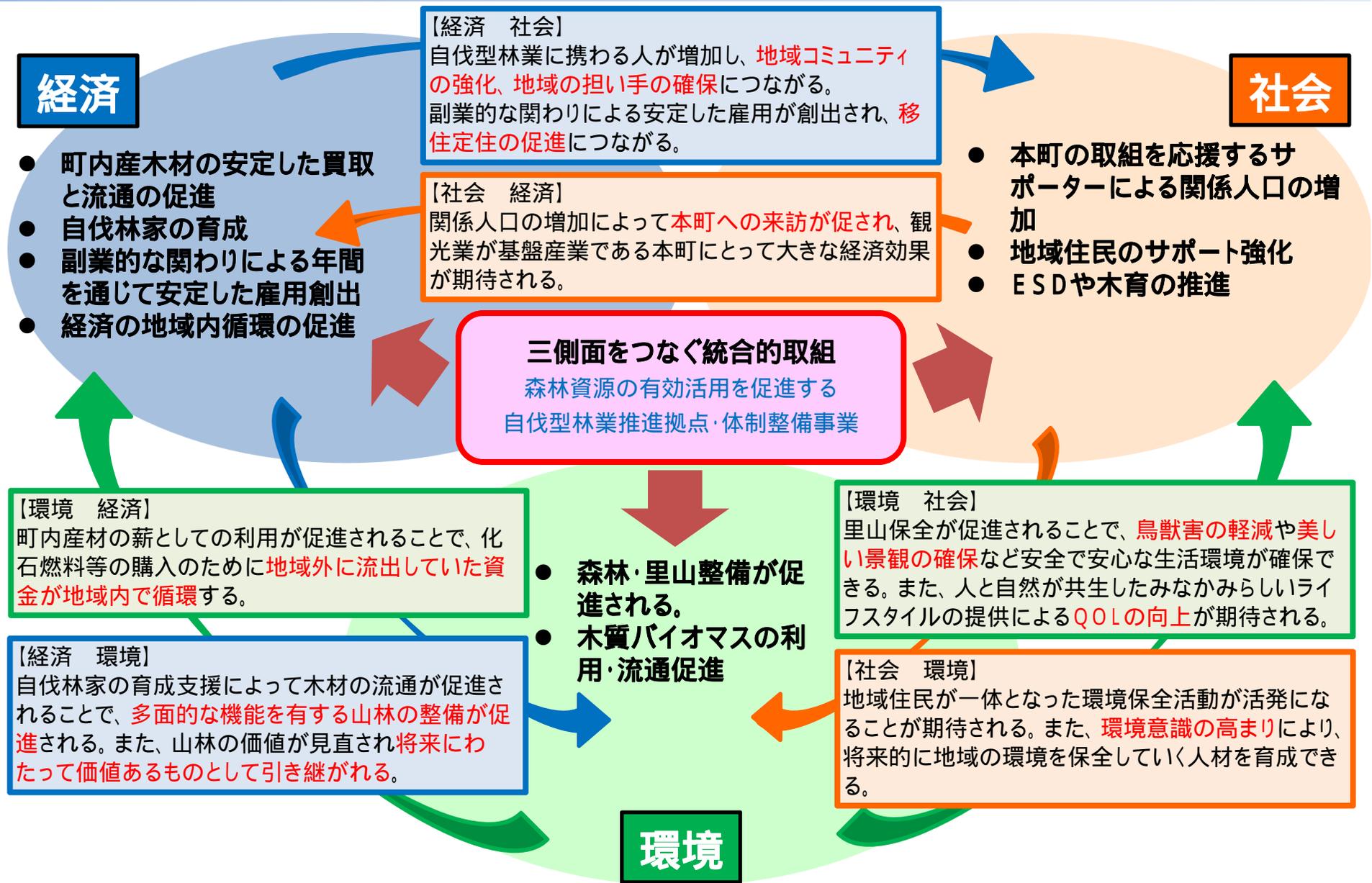
登録



利根川でつながる
都市部住民の方々

- 本町の取組に共感してくれる人
- 本町に縁やゆかりのある人
- 本町への約400万人の来訪者
- 友好都市に暮らしている人 など

統合的取組によって生じる相乗効果



自律的好循環

ビジネスを通じた社会的課題解決、域内での循環型経済の進展、地域の人的資産の交流等を通じて、地域の経済・社会・環境システムの自律的好循環を創出する。

経済(財政)的な視点

搬出された木材をしっかりと活用し経済的に流通させる(併せて木材のブランド化を推進する)ことで、山林所有者や林家に安定的な収入が見込める**ビジネスの手法による社会的課題解決**である。
また、エネルギーの地産地消の推進など、**地域内経済循環を推進**することで、補助金等に頼らない自立自走が見込める取組である。

社会(人材)的な視点

里山の整備を人任せにするのではなく、山林所有者や地域住民自らが行えるようにすることで、活動の輪が広がりやすく**次の世代に継承されやすい**仕組みである。
また、みなかみらしいライフスタイルの提供や安定した雇用の創出につながり、**移住・定住促進**にも結び付く。木育や環境教育を推進することで、**将来の地域リーダーの育成**にも寄与する。
また、都市部住民との交流も促進され、**地域を超えた取組**となる。

環境(森林)の視点

森林整備を世代を超えた長期的な視点で行うことで、一時的ではなく**継続的に収入を得つつ、将来的に残された山林の価値そのものを高めていく**取組である。